



2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

2025年4月～12月

株式会社MCJ

2026年2月5日

2026年3月期 第3四半期（4月～12月）における主なトピックス

業績サマリー

□ 売上高及び営業利益共に過去最高を更新

- 3Q累計（4月～12月）及び3Q（10月～12月）の双方において過去最高を更新
- 2Q（7月～9月）に続き3Qも前年同期比30%を超える営業増益を達成

業績に係るトピック

□ パソコン関連事業は国内PC事業の好調が全体業績を牽引

- 国内PC関連事業は主要3社共に前年同期比増収増益が継続
- 海外PC関連事業は3Q累計では期初予想通り減益も、iiyamaは2Q(4月～6月)*に続き3Q（7月～9月）においても前年同期比営業増益を達成

□ 総合エンターテインメント事業は前年同期比増収増益

- コロナ禍における構造改革効果と売上向上施策効果が継続
 - ネットカフェの増益基調継続に加え、24時間フィットネス事業が引き続き増益を牽引

□ 3Qまでの好調継続を受け営業利益は中計最終目標を上回るペースで推移

- 上半期の業績を鑑みて10月30日に通期業績を上方修正（営業利益予想197億）
- この度3Qの業績を受けて中計最終年度目標を上回る見込み

その他トピックス

□ 今期スタートの新中計にて掲げる積極的な株主還元を早期に実施

- 2025年7月より3Q末までにかけて総額40億円の自社株買いを実施
- 前期発表自社株買いの今期購入分12億円、及び6月株主総会にて承認の総額42億円の配当と合わせて3Qまでに総額94億円を株主へ還元

連結業績サマリー (1/2)

2026年
3月期
第3四半期

実績

4月～12月
累計期間□ 国内PC事業の好調により、売上高及び各利益共に過去最高を達成

- 売上高： 1,625億円 （前年同期比 10.2%増）
- 営業利益： 171億円 （同 17.0%増）
 - 売上利益共に2桁の増収増益を達成
 - 売上総利益率及び営業利益率も過去最高を達成。売上の成長に加え、高水準の利益率が継続

10月～12月
会計期間□ 3Qとして売上高及び各利益共に過去最高を達成

- 売上高： 584億円 （前年同期比 13.7%増）
- 営業利益： 63億円 （同 31.0%増）
 - 売上高は2Qに続き2桁増収。500億円を超える四半期売上が継続
 - 国内PC事業の増益継続に加え、海外PC事業も3Qでは営業増益達成。結果、3Qの営業利益は初の60億円超えとなるとともに、四半期ベースで過去最高となる

連結業績サマリー (2/2)

3Qでは2Qに続き前年同期比2桁の増収増益が継続
結果、3Q累計及び3Q双方において過去最高の売上高及び営業利益となる

(百万円)	会計期間 (10月～12月)			累計期間 (4月～12月)		
	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	増減率	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	増減率
売上高	51,378	58,422	13.7%	147,557	162,593	10.2%
営業利益	4,860	6,368	31.0%	14,624	17,117	17.0%
経常利益	4,658	6,372	36.8%	14,882	17,153	15.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,343	4,485	34.2%	10,606	11,933	12.5%

- 今期3Qまでの各四半期において前年同期比での増収を達成
- 前年同期比30%を超える増益となり、3Q営業利益は四半期業績として過去最高の63.6億円となる
- 3Q累計期間営業利益も初の170億円超えとなり、過去最高を更新

【参考資料】 一時的な要因を除いた 連結業績サマリー

前期1Qに計上の一時収益を除く実質ベースでも
売上高及び各利益ともに2桁を超える大幅な増収増益となる

(百万円)	会計期間（10月～12月）			累計期間（4月～12月）		
	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	増減率	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	増減率
売上高	51,378	58,422	13.7%	145,852	162,593	11.5%
営業利益	4,860	6,368	31.0%	13,944	17,117	22.8%
経常利益	4,658	6,372	36.8%	14,201	17,153	20.8%

- 前期1Qに保有資産売却収益を計上。上記は当該影響を除く実質ベースでの参考数値となる
- 当該一時収益を除く実質ベースでは、3Q累計業績の増収増益基調がより鮮明となる

第3四半期（4月～12月）連結損益計算書

売上高は第3四半期として初の1,600億円超えとなる
利益面では各利益額及び利益率ともに、同期間として過去最高を更新

(百万円)	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	147,557	100.0%	162,593	100.0%	15,036	10.2%
売上原価	109,881	74.5%	120,604	74.2%	10,722	9.8%
売上総利益	37,675	25.5%	41,989	25.8%	4,314	11.5%
販売費及び一般管理費	23,050	15.6%	24,871	15.3%	1,821	7.9%
営業利益	14,624	9.9%	17,117	10.5%	2,492	17.0%
経常利益	14,882	10.1%	17,153	10.5%	2,270	15.3%
税金等調整前 四半期純利益	14,851	10.1%	17,221	10.6%	2,370	16.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	10,606	7.2%	11,933	7.3%	1,327	12.5%

国内PC事業全社が
2桁増収となり全体を
牽引

売上総利益額及び
率ともに過去最高を
達成。円安傾向継続
も高水準の利益率が
継続

人件費や広告宣伝
費といった戦略費用
増に加え、売上増に
伴う変動費用が増加
するも、売上に対する
販管費率はむしろ低
下。規律ある経費コ
ントロールを継続

上記の結果、営業増
益額及び率共に過去
最高となる

経常利益以下の各
利益も3Q累計期間
としての過去最高を
更新

【参考資料】一時的な要因を除いた 第3四半期（4月～12月）連結損益計算書

前年1Q計上の保有資産売却に伴う影響を除いた実質ベースでも
売上・利益ともに2桁増となり、増収増益基調がより鮮明となる

(百万円)	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	145,852	100.0%	162,593	100.0%	16,741	11.5%
売上原価	108,857	74.6%	120,604	74.2%	11,747	10.8%
売上総利益	36,994	25.4%	41,989	25.8%	4,994	13.5%
販売費及び一般管理費	23,050	15.8%	24,871	15.3%	1,821	7.9%
営業利益	13,944	9.6%	17,117	10.5%	3,173	22.8%

国内PC事業全社が
2桁増収となり全体を
牽引

売上総利益額及び
率ともに過去最高を
達成。円安傾向継続
も高水準の利益率が
継続

戦略費用の増額影響
あるも、対売上高比率
は前年以下となる

上記の結果、営業利
益額及び率ともに過
去最高となる

第3四半期（10月～12月）連結業績推移グラフ

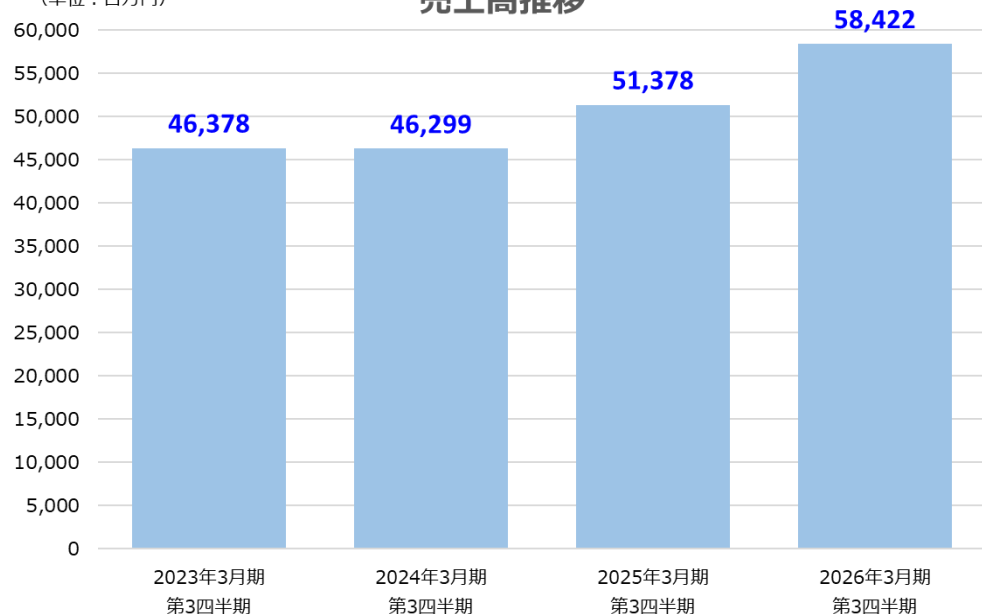
売上高は国内PC事業が牽引し増収
営業利益も大幅増益となり、売上・営業利益共に3Qとしての過去最高となる

国内PC事業3社がいずれも前年同期比
2桁増収となり、3Qとしての過去最高を達成

国内PC事業3社に加え、iiyamaも
前年同期比増益となり、3Qのみならず四半期
ベースの営業利益として過去最高を達成

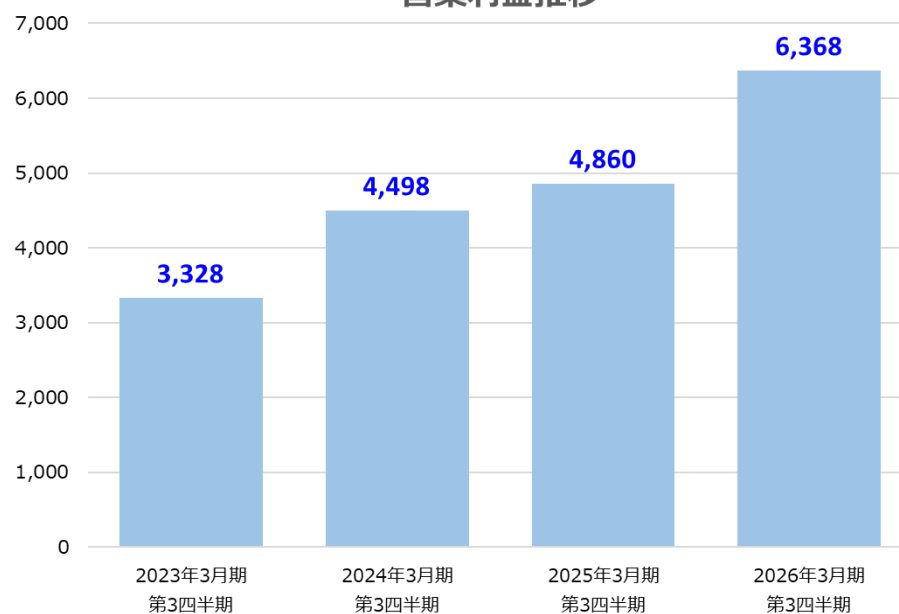
(単位：百万円)

売上高推移



(単位：百万円)

営業利益推移



第3四半期（4月～12月）連結業績推移グラフ

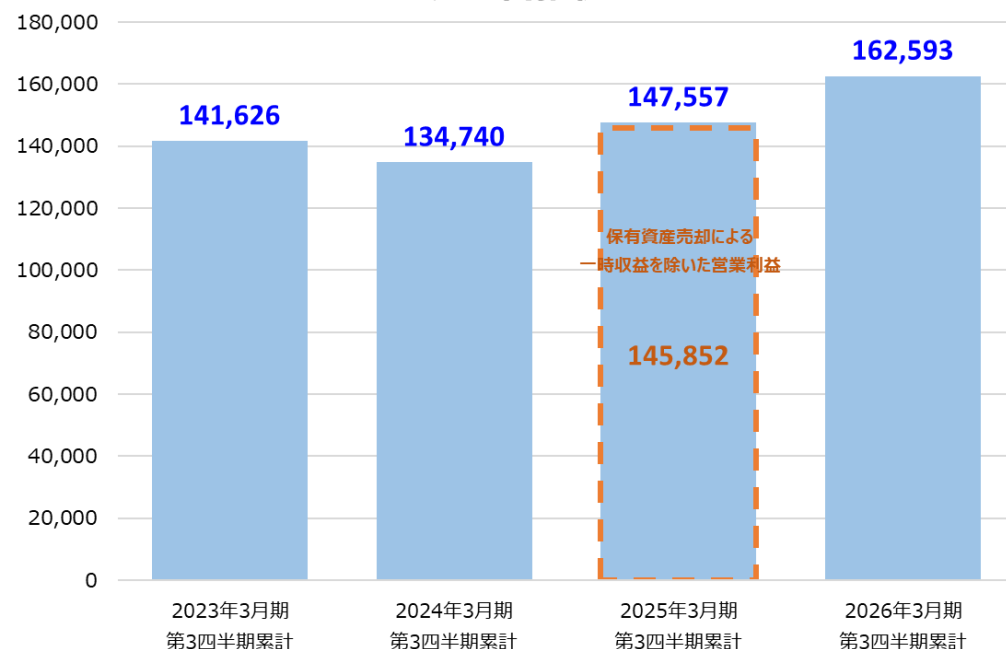
売上高は第3四半期として初の1,600億円超えを達成
営業利益は安定的に伸長し、第3四半期としての過去最高益を3年連続で更新

国内PC事業3社がいずれも前年同期比2桁増収となり、第3四半期として初の売上高1,600億円超えを達成

国内PC事業3社がいずれも前年同期比大幅な増益、またiiyamaが小幅減益にとどまり、第3四半期として初の営業利益170億円超えを達成

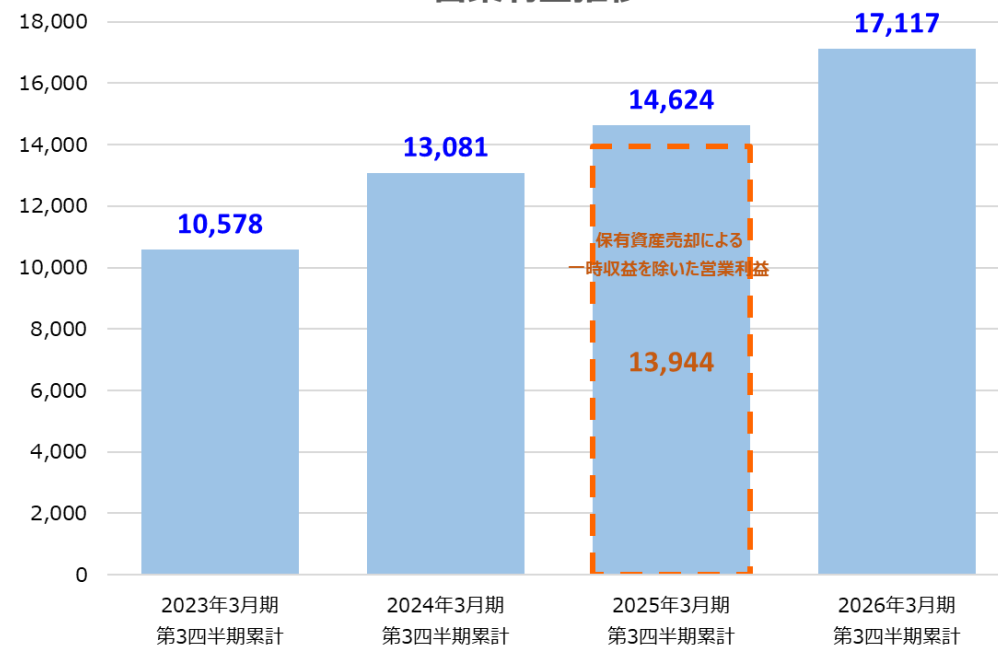
（単位：百万円）

売上高推移



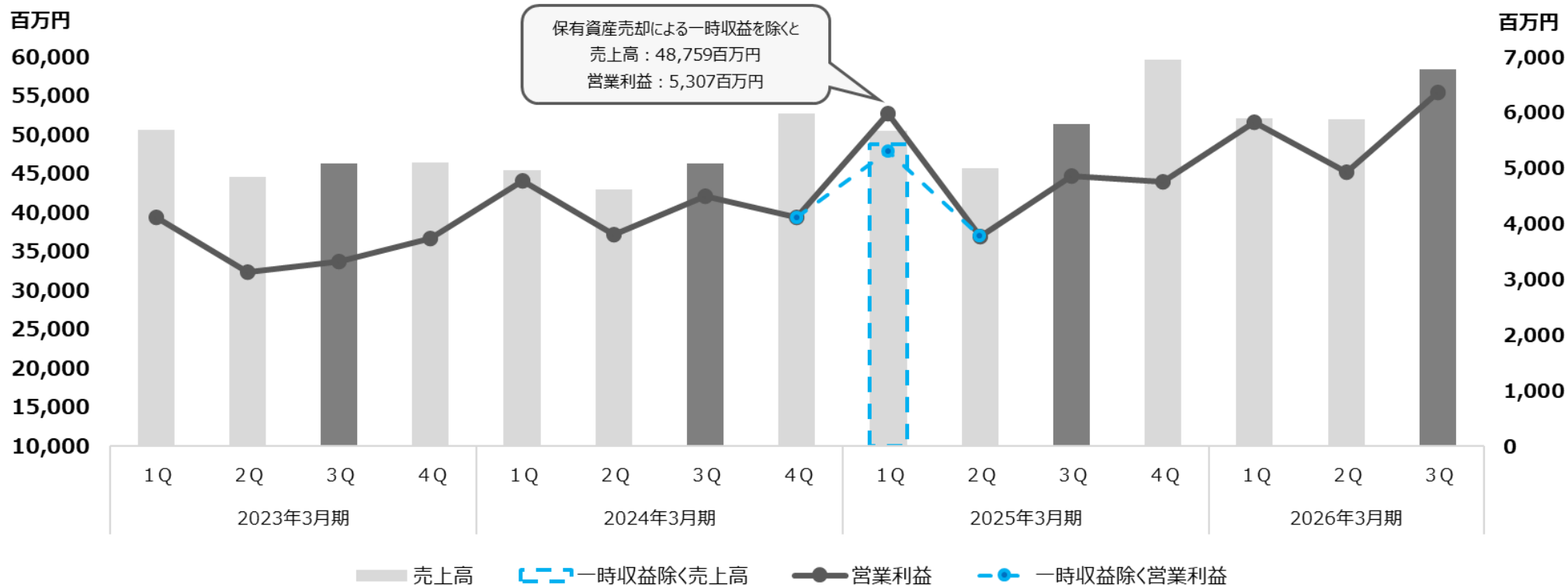
（単位：百万円）

営業利益推移



第3四半期（10月～12月）連結業績推移

1Qより売上高は500億円を超える水準が定着。前期に続き3Qとしての過去最高売上を達成
営業利益は63億円を超え、3Qのみならず全ての四半期ベースで高水準の利益成長を継続



(百万円)	2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	50,614	44,633	46,378	46,449	45,495	42,945	46,299	52,715	50,464	45,714	51,378	59,614	52,131	52,040	58,422
営業利益	4,113	3,136	3,328	3,740	4,775	3,807	4,498	4,111	5,987	3,776	4,860	4,753	5,826	4,923	6,368

※ 上記表の2025年3月期1Qには、保有資産売却による一時収益による影響を含んでおります。

第3四半期（4月～12月）連結業績予想に対する達成率及び進捗

- 業績に係る期初予想は、前年1Q計上の一時収益の影響やiiyama減益の前提にて10%程度の営業減益を想定
- 国内PC事業の好調を主因とする上半期業績の好調を受け、10月30日に通期業績予想を上方修正

《期初 通期業績予想に対する達成率》

(百万円)	2026年3月期 第3四半期実績	2026年3月期 通期業績予想	達成率
売上高	162,593	208,900	77.8%
営業利益	17,117	17,400	98.4%
経常利益	17,153	17,400	98.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,933	12,000	99.4%

売上高は国内PC事業が牽引し
期初想定通り前年同期比増収。
増収率は想定を上回る

10%～15%程度の減益想定であった
各利益は、国内PC事業の大幅増益
及び想定を上回るiiyamaの業績を受
け、全体として増益で推移

《10月30日修正後 通期業績予想に対する達成率》

(百万円)	2026年3月期 第3四半期実績	2026年3月期 通期業績予想	達成率
売上高	162,593	214,000	76.0%
営業利益	17,117	19,700	86.9%
経常利益	17,153	19,700	87.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,933	13,500	88.4%

売上高は、国内PC事業が引き続き想
定以上で推移した結果、高い進捗率と
なる

各利益も、国内PC事業の大幅増益基
調の継続及び想定を上回るiiyamaの
業績を受け、高水準での進捗となる

参考：再掲）2026年3月期通期業績予想を10月30日に上方修正

《期初通期予想の対前年通期実績比》

(百万円)	前年度実績に対する期初予想比率		
	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 期初通期予想	対比率
売上高	207,171	208,900	100.8%
営業利益	19,378	17,400	89.8%
経常利益	20,018	17,400	86.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,052	12,000	85.4%

- 売上高は国内PC事業の好調を主因とし増収を計画、過去最高の売上高更新を狙う
- 利益面では、①国内PC事業の増益幅は保守的に見積もる一方で、②前期1Q計上の資産売却に伴う一時収益の影響（営業利益で約7億円相当）、③iiyamaの減益（前期上半期のハードルの高さ及び為替要因による）、及び④販管費増、により減益を想定

《今回上方修正後の通期業績予想：売上高及び営業利益共に過去最高を見込む》

(百万円)	前年度実績及び期初予想に対する修正予想比率				
	2026年3月期 修正通期予想	2025年3月期 通期実績	対比率	2026年3月期 期初通期予想	対比率
売上高	214,000	207,171	103.3%	208,900	102.4%
営業利益	19,700	19,378	101.7%	17,400	113.2%
経常利益	19,700	20,018	98.4%	17,400	113.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,500	14,052	96.1%	12,000	112.5%

- 上半期については、①国内PC事業の期初予想比での好調、並びに②iiyamaの減益幅が想定よりも小さかったこと、から前年同期比増収増益にて着地
- 下半期については好調継続も、保守的な計画スタンスにより下半期業績予想は期初予想にてステイ。上半期上振れ分のみを加味して通期業績予想を修正
- 以上の結果、**売上高及び営業利益共に過去最高の更新を見込む**

セグメント情報 第3四半期 4月～12月実績

□ パソコン関連事業





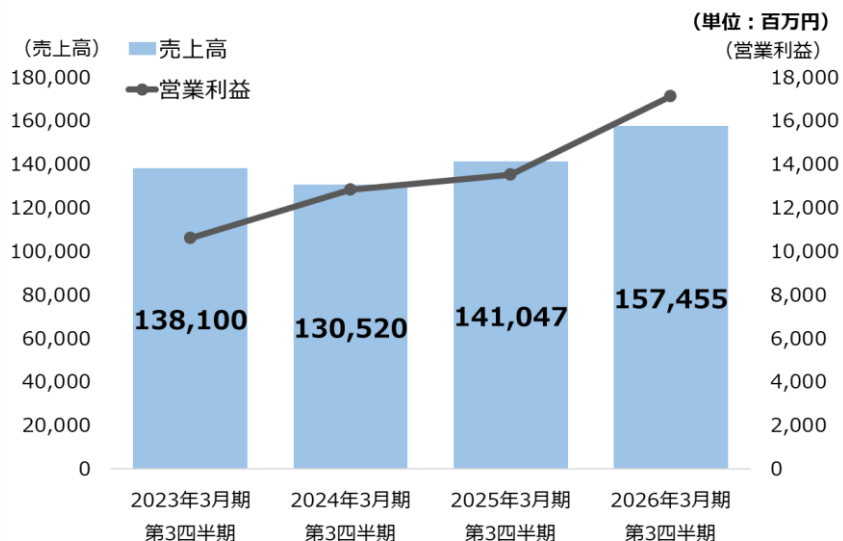


➤ 売上高 1,574億円（前年同期比 11.6%増）

- 国内パソコン関連事業はマウス、ユニットコム、テックウインドの3社ともに前年同期比2桁増収を達成
- 海外パソコン関連事業（1月～9月）はiiyama、R-Logicともに期初予想通り前年同期比減収

➤ 営業利益 164億円（同 21.9%増）

- 国内パソコン関連事業は3社ともに前年同期比大幅増益を達成
- 海外パソコン事業は両社ともに前年同期比減益となるも、iiyamaは2Q（4～6月）以降増益が継続



パソコン関連事業 (百万円)	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	141,047	96.7%	157,455	96.8%	16,408	11.6%
営業利益	13,502	96.8%	16,452	96.1%	2,950	21.9%

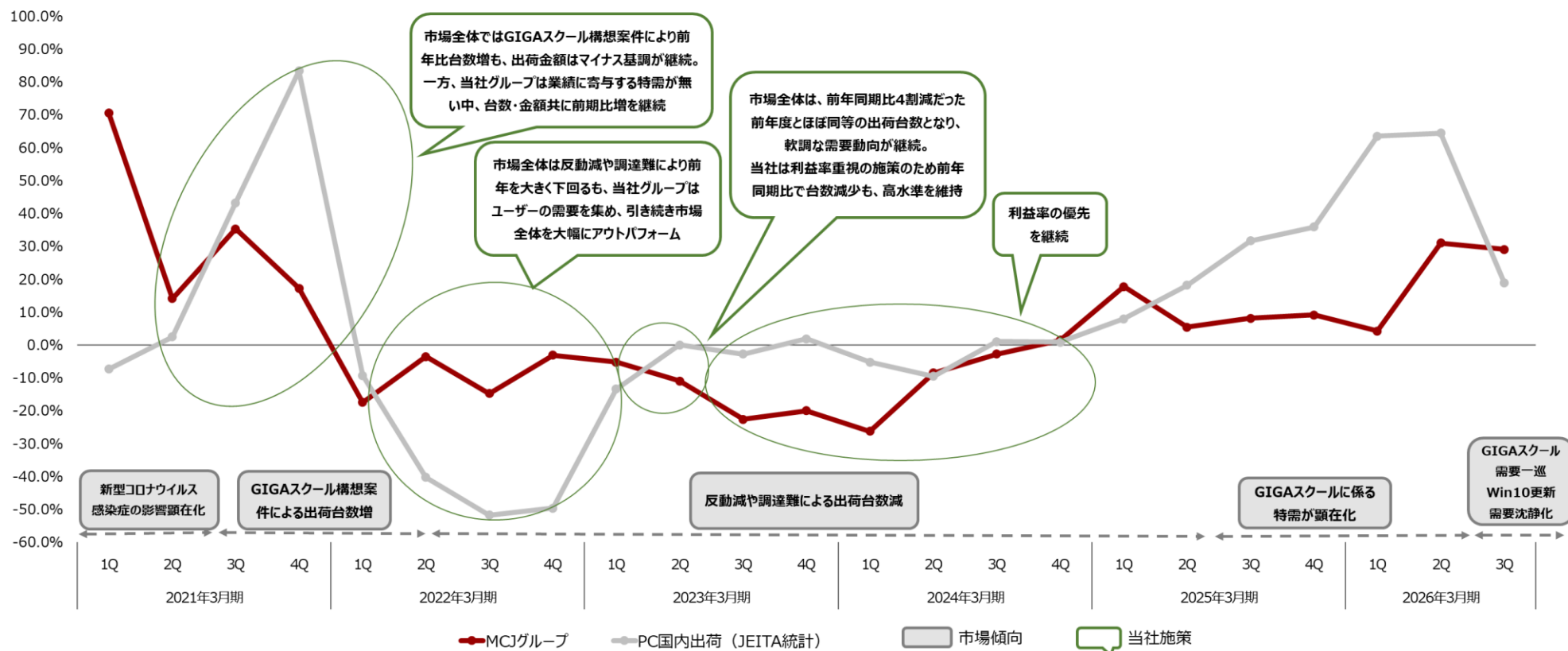
※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

※ 2025年3月期につきましては、保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となります。

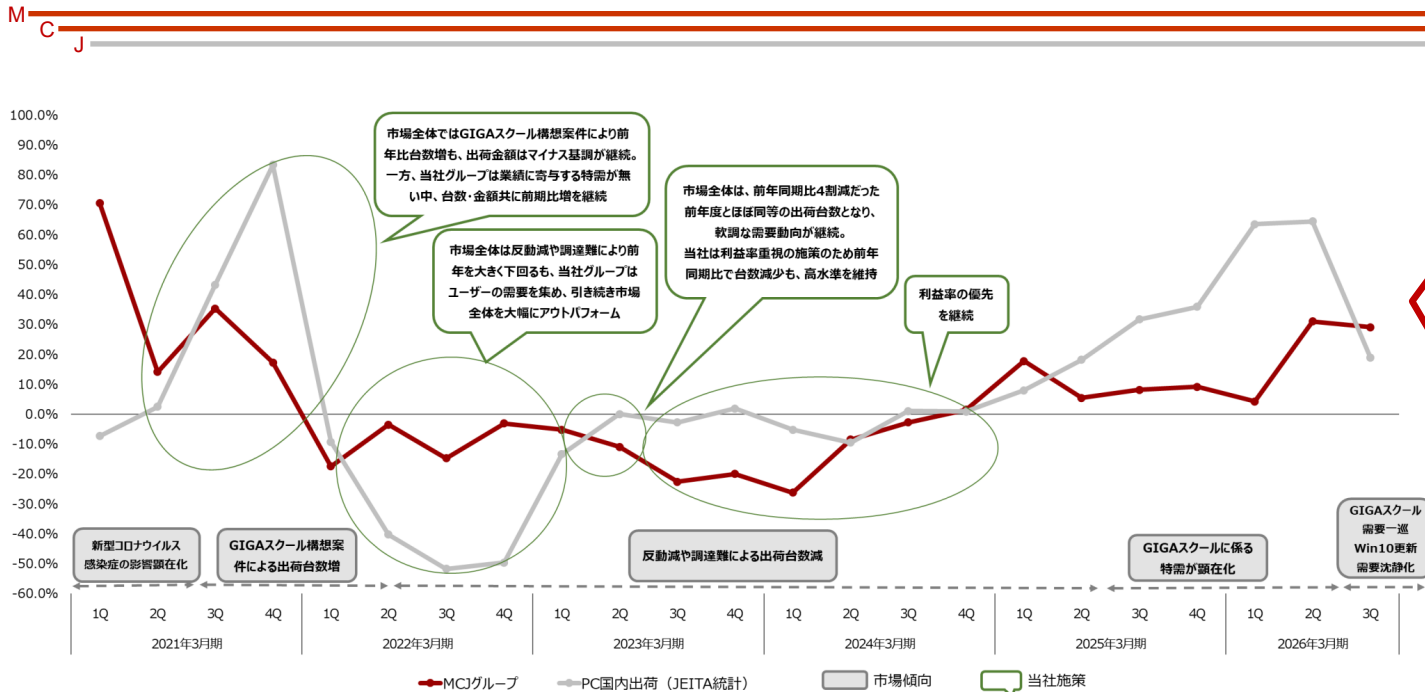
国内パソコン出荷台数増減率の推移（1/2）

国内PC市場全体は、GIGAスクールに係る出荷を中心に好調を維持するも、対前年での成長率は鈍化
 当社グループは、GIGAスクールへの積極関与せずとも、前年同四半期比での出荷台数増が継続

- ※ 下記グラフは対前年同四半期比での出荷台数の増減（例えば今期4Qと前期4Qとの比較）を示すものであり、経年での出荷台数又はその増減の推移を表すものではありません。
- ※ 当社グループの数値はマウスとユニットコムの出荷台数合算でグループ全体の平均的なトレンドを表しており、個別の会社の実際の出荷台数増減トレンドや強弱とは異なる可能性がございます。



国内パソコン出荷台数増減率の推移（2/2）



GIGAスクール特需の影響が限定的な当社グループは、2023年3月期及び2024年3月期において、調達環境やユーザー需要を鑑みた利益重視施策により、政策的に出荷台数を抑制するも、2021年3月期以降の台数減は市場対比でマイルドであり、前年同四半期比でのハードルが市場より高いものの、2024年3月期4Qより一貫して前年同四半期比での台数増が継続

今後も出荷台数増と収益性のバランスを重視し、継続性と安定性のある成長を目指す

国内PC市場はコロナ特需やGIGAスクール需要等により2021年3月期が直近のピーク。特需後以降はマイナスが続き、2024年3月期までの3年間で市場規模が約半減

前期2025年3月期からは以下の要因によりユーザー需要が回復。期初想定通り下半期以降、前年同四半期比での台数増がより加速

1. サイクル的な買い替え需要（前期期初より顕在化）
2. Windows10サポート終了（2025年10月）に伴う買い替え需要
3. GIGAスクール更新需要（上記2とともに前期下期より顕在化）

上記のうち、2に係る需要が3Qに入り沈静化した事、及び3による需要押上げ要因が3Qに入り一巡したことから、市場全体の成長率は鈍化

【参考】

市場全体の3Q前年同期比：**118.8%**

- ・うちモバイルノート(GIGA含む)：**136.5%**
- ・うち通常ノートPC：**105.3%**
- ・うちデスクトップPC：**95.8%**

セグメント情報 第3四半期 4月～12月実績

口 総合エンターテインメント事業：株式会社aprecio、株式会社MID 【ネットカフェ、24時間フィットネス、ホテル運営事業】

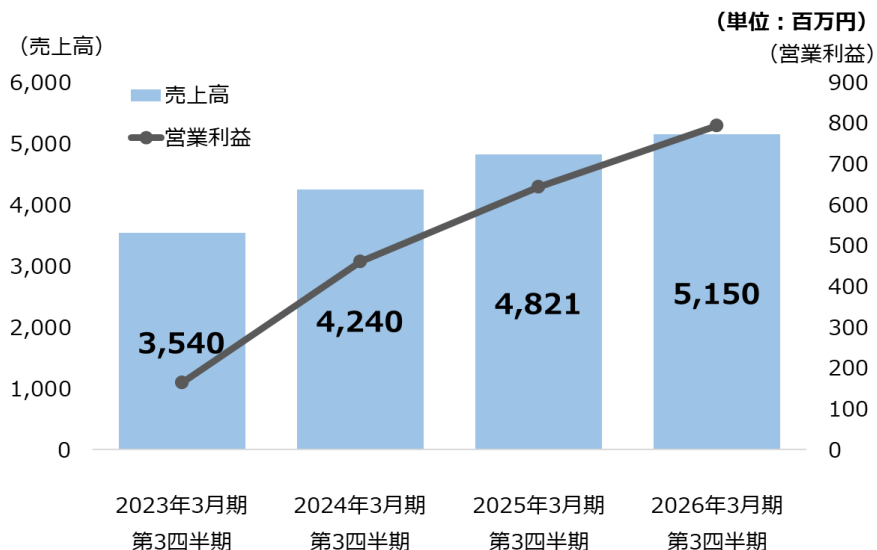


➤ 売上高 51.5億円（前年同期比 6.8%増）

- 各四半期において増収が継続
- 24時間フィットネス事業が引き続き堅調に推移し、全体の増収を牽引

➤ 営業利益 7.9億円（同 23.1%増）

- 主力事業であるネットカフェ事業は増益基調が継続
- 注力事業である24時間フィットネス事業も引き続き増益となり全体を牽引



総合エンターテインメント事業 (百万円)	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	4,821	3.3%	5,150	3.2%	328	6.8%
営業利益	644	4.4%	793	4.6%	148	23.1%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

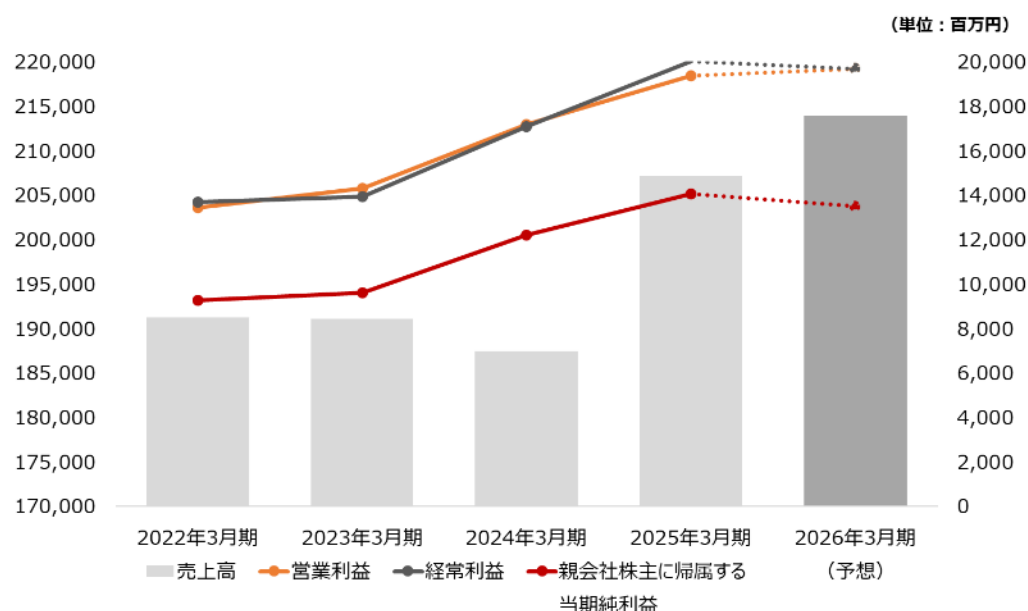
中期経営計画進捗サマリー

		目標値	実績
2026年 3月期 第3四半期 4月～12月	営業利益率	7%以上	<u>10.5%</u>
	ROIC	15%程度以上	<u>通期にて開示予定</u>
	ROE	15%程度以上	<u>通期にて開示予定</u>
	配当性向	30%以上	<u>31.2%（計画）</u>
	DOE	4.5%程度	<u>通期にて開示予定</u>
	総還元性向	30～50%中心 80%上限目安	<u>通期にて開示予定</u>
	事業運営 方針	<p>□ 足元の事業環境や中計方針に則り以下方針にて着実な成長を狙う</p> <ul style="list-style-type: none">●【国内PC事業】：マウス、ユニットコム：利益を伴う売上成長を図り、将来的な更なる事業の拡大に備える テックウインド：収益基盤の多様化による収益性の安定化●【海外PC事業】：変わりつつある環境に臨機応変に適応し収益基盤強化●【総合エンターテインメント事業】：伸ばせる事業へ注力。黒字定着及び拡大	

2026年3月期 通期連結業績予想

期初予想比の段階では増収減益計画も、上半期の好調を受け
10月30日に通期業績を上方修正、過去最高の売上高及び営業利益を見込む

(百万円)	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
売上高	191,247	191,076	187,455	207,171	214,000
営業利益	13,435	14,318	17,192	19,378	19,700
経常利益	13,680	13,935	17,087	20,018	19,700
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,283	9,603	12,199	14,052	13,500



- 国内パソコン事業が期初予想を大幅に上回り好調に推移したことに加え、前年同期比で減収減益を想定していた欧州モニタ事業も当第3四半期連結会計期間において増収増益を達成する等、全体として期初見通しを上回る堅調な推移となった
- メモリ等一部原材料・部材の調達難や価格高騰、及びこれに伴う一部ユーザーからの駆け込み需要を受け、受注を一時停止するなどの措置を取り、品質及び納期のコントロールを行っている状況

株主還元① 配当金について

2026年3月期の配当金予想は増収増益を見込むこともあり
前期比での増配継続を前提とする

		実績					予想
		2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
年間1株当たり 配当金		57円00銭				43円00銭	44円00銭
	普通配当	31円00銭	32円00銭	33円00銭	37円00銭		
	記念配当				20円00銭		
配当性向		46.2%				30.1%	31.2%
	普通配当	30.5%	33.9%	33.9%	30.0%		
	記念配当				16.2%		
総還元性向		30.5%	33.9%	33.9%	46.2%	35.7%	69.8%

□ 2026年3月期期末1株当たりの配当金の予想額は44円00銭と想定

» 前期比増配の継続を優先：記念配当を除く普通配当では**13期連続での増配**を見込む

株主還元② 株主優待制度について

2026年3月期も引き続き株主優待制度を実施予定

①1,000株以上

1万円相当の当社オリジナルカタログ
(グループ製品及び飲食料品を予定) より1点選択 + ②

<商品一例>

21.5型液晶ディスプレイ／パソコン工房1万円商品券
米沢牛すきやき肉／うなぎ蒲焼／アイスセット
日本酒セット 等



②100株以上1,000株未満

『パソコンワンコイン診断サービス』利用券
(500円×2枚)



Appendix

商号 : 株式会社MCJ (英語表記 MCJ Co.,Ltd.)

設立：1998年8月

代表者： 代表取締役会長兼CEO 高島 勇二
代表取締役社長兼COO 安井 元康

資本金 : 3,868,102,900円

従業員数（連結）： 3,949人 ※うち臨時職員1,698人（2025年3月末）

発行済株式数 : 101,774,700株 (同上)

証券コード : 6670 (東京証券取引所スタンダード市場上場)

MCJグループ 主要子会社紹介

MCJ
HOLDING COMPANY



長期的な経営ビジョン ～ハードウェア×サービスの両輪による成長～

経営ビジョン及び事業方針

相乗効果

取扱製品（ハード）

の拡充

コンテンツ・サービス分野

への事業領域の拡大

設定の背景/考え方

情報に「アクセスする、発信する、共有する」手段としてのデバイスの多様化とユーザーニーズの多様化

- 形は変われども情報への接点としてのハードウェアは無くならない
- ハードウェアは成長産業

ハードウェア・サービスはそれぞれ独立関係ではなく、相互依存関係であり、ビジネスとしても一貫して捉えるのが自然

- ハードウェアよりも事業ドメインは意外とスタティックな世界
- ハードウェア以上の成長ポテンシャル

方向性/目標

- PC、モニタへの注力は継続
 - » 日本・欧州における更なる成長を模索
- コンシューマーハードウェア / 法人向けハードウェア...
 - » 成長市場へのアクセスを図る






- 既存ハード事業と親和性のあるサービス等の開拓
 - » 日本市場を中心としてスタート
- コンシューマー/法人向けサービス...
 - » まずはスモールスタート

目標達成手段

- 自社グループによる開発
- アライアンス戦略による拡大
 - » M&A、ベンチャー投資、事業提携...

- M&Aによる事業ドメインの拡大
- アライアンスによるサービス多様化
 - 当初はV B 投資 / 少額M&Aにて着手

経営上重視するKPI

重要視するKPI	実績数値及び目標数値		
	2023年3月期実績	2025年3月期実績	今回中期経営計画期間における目標
営業利益率 <営業利益/売上高>	7.5%	9.1%*	 7%以上 連結ベースで7%以上を目安に事業運営及びポートフォリオ管理を実施
ROIC <NOPAT/事業性投下資本>	18.8%	23.3%	 15%程度以上 資本コスト比スプレッドを確実に取る事を前提とし、資本効率を意識した事業運営及びポートフォリオ管理を実施。その前提で下限値を設定
ROE <当期純利益/期中平均自己資本>	15.3%	16.7%	
配当性向 <1株当たり配当金/1株当たり当期純利益>	33.7%	30.1%	 30%以上 下限を30%と設定し、M&Aを含む成長投資機会との兼ね合いにて都度判断
DOE <ROE×配当性向>	5.2%	5.0%	 4.5%程度 成長投資と株主還元のバランスを意識した経営を行うべく設定
総還元性向 <(配当金総額 + 自己株式取得額)/当期純利益>	33.7%	35.7%	 30～50%中心 80%上限目安 増配基調の維持を優先。想定ROE、株価水準等により自社株買いを実施

※ 2025年3月期の営業利益率は保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となっております。

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与えうる主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

< IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ
経営企画室 広報IR担当

Mail : ir-otoiawase@mcj.jp
HP : www.mcj.jp

